

# 授業シラバス

## 詳細情報

科目名「クラス名」(サブタイトル)	期別	単位数	開講年次
現代を生きる(災害から自分や家族を守る)	後期	2	1
担当教員	重松 幹二、(工)、高山峯夫(工)、池上賢次(福岡市消防局)、佐藤研一(工)、松井渉(日本気象協会)、佐藤和幸(福岡市防災危機管理課)、高橋淳夫(読売新聞社)、伊藤豪(商)、黒岩中(医)		

## 授業の目標

平成11年および15年の御笠川氾濫における博多駅周辺の水没、平成17年の福岡県西方沖地震の被害により、安全と思われていた福岡市内でも日頃から災害に対して高い注意意識が必要であることが明らかとなった。また、将来関東・東海・関西などに就職する学生に対しても、大学で防災・減災に関する知識を身に付けておくことは極めて重要である。

この講義では、防災に関する基礎知識を学ぶことにより、災害から自分や家族を守る術、被害を最小にする準備と対応方法を修得する。特に、自助(自分や家族の命はまず自分たちで守らなければならない)・共助(被災した近所の人を助けることの重要性)・公助(公的機関による救援行動の大災害時における脆弱さ)の考え方を柱とし、一生涯役に立つ教養を身に付けてもらうことを目標とする。

## 授業の概要

講師は工学部・商学部・医学部の学内スタッフおよび福岡市役所・消防局・各種報道機関と多岐に渡っており、文系理系両側面から防災に関する知識を広く得ることに特徴がある。このような知識を持った福岡大学生および卒業生が、非常時にも適切な行動をとり、他人を思いやり、活躍することを期待してやまない。

## 成績評価基準および方法

定期試験(80%)と毎時間行う小テスト(20%)を総合して成績評価を行う。

## テキスト

プリントを配布する。

## 履修上の留意点

講師の都合で講義順が変更となる場合がある。

### 授業計画

[イントロダクション]

1. 防災意識の必要性(重松幹二)

[災害から自分を守る]

2. 過去の大震災や風水害からの教訓(高山峯夫)
3. 個人の平常時の準備と災害時対応(池上賢次)
4. ライフラインの被害想定と断絶時対応(佐藤研一)

[災害の状況を知る]

5. 気象予報、警報・注意報(松井渉)
6. 最近の自然災害(松井渉)

[地域を守る]

7. 防災関係機関の対応(佐藤和幸)
8. 地域の防災活動、自主防災組織、消防団活動(池上賢次)
9. 災害に対する報道機関の取り組み(高橋淳夫)

[災害と社会システム]

10. 被災社会の多様性(高橋淳夫)
11. 都市防災計画と交通(佐藤研一)
12. 災害と損害保険(伊藤豪)

[いのちを守る]

13. いのちを守る(黒岩中)
14. 防災活動の必要性(重松幹二)

[研究者情報](#)
[教員プロフィール](#)
[一覧に戻る](#)